

ジオスペース館だより

★ 今月の星もよう ★

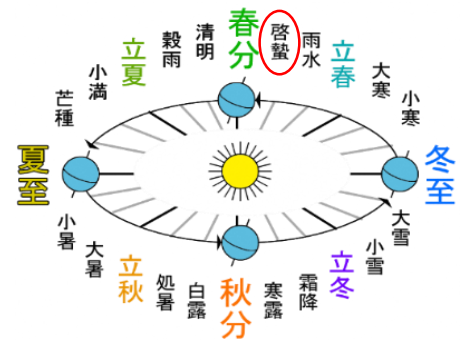
日に日に春めいてくるこの季節、星空も冬から春へと移り変わろうとしています。3月中旬の夜8時頃の星空を見上げると、春の星座たちが東の空へと昇り、冬の星座は南西の空に傾いています。それでも、1等星が多く輝く冬の星座はまだまだ目立ち、天頂には「ふたご座」が見えています。「ふたご座」は双子の兄弟の姿で、その頭に光る星は、兄弟の名前と同じポルックスとカストル。同じような明るさですが、ポルックスは1等星で金色、カストルは2等星で銀色をしており、日本では「金星」「銀星」と呼ばれ、親しまれてきました。「ふたご座」の東には「かに座」「しし座」「おとめ座」と春の星座が並んでいます。「かに座」は暗い星が多く、見つけにくいのですが、かにの甲羅の中央には「プレセペ星団」の星々が光っています。双眼鏡で探してみてください。また、「かに座」の下から「しし座」「おとめ座」の下まで、クネクネと続いているのは「うみへび座」です。「うみへび座」は、東の地平線から頭が出て、尻尾の先まで昇りきるまでに約7時間もかかるという、全天88星座の中で1番大きな星座なのです。



星図は、ステラナビゲーター11を使用して作成

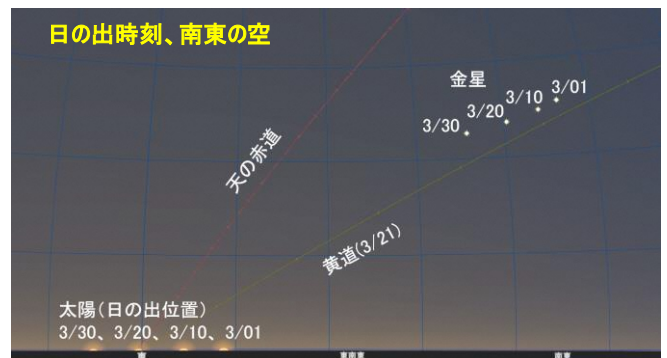
★ 二十四節気・3月5日は《啓蟄》

1年を24等分し、季節を表す二十四節気。3月上旬の節気は《啓蟄》と呼ばれ、毎年3月6日頃となります。《啓蟄》とは、元々は「蟄虫啓戸（チツチュウケイコ）」という言葉に由来し、土の中で冬ごもりしていた虫が這い出す、という意味で、春の訪れを感じる季節です。



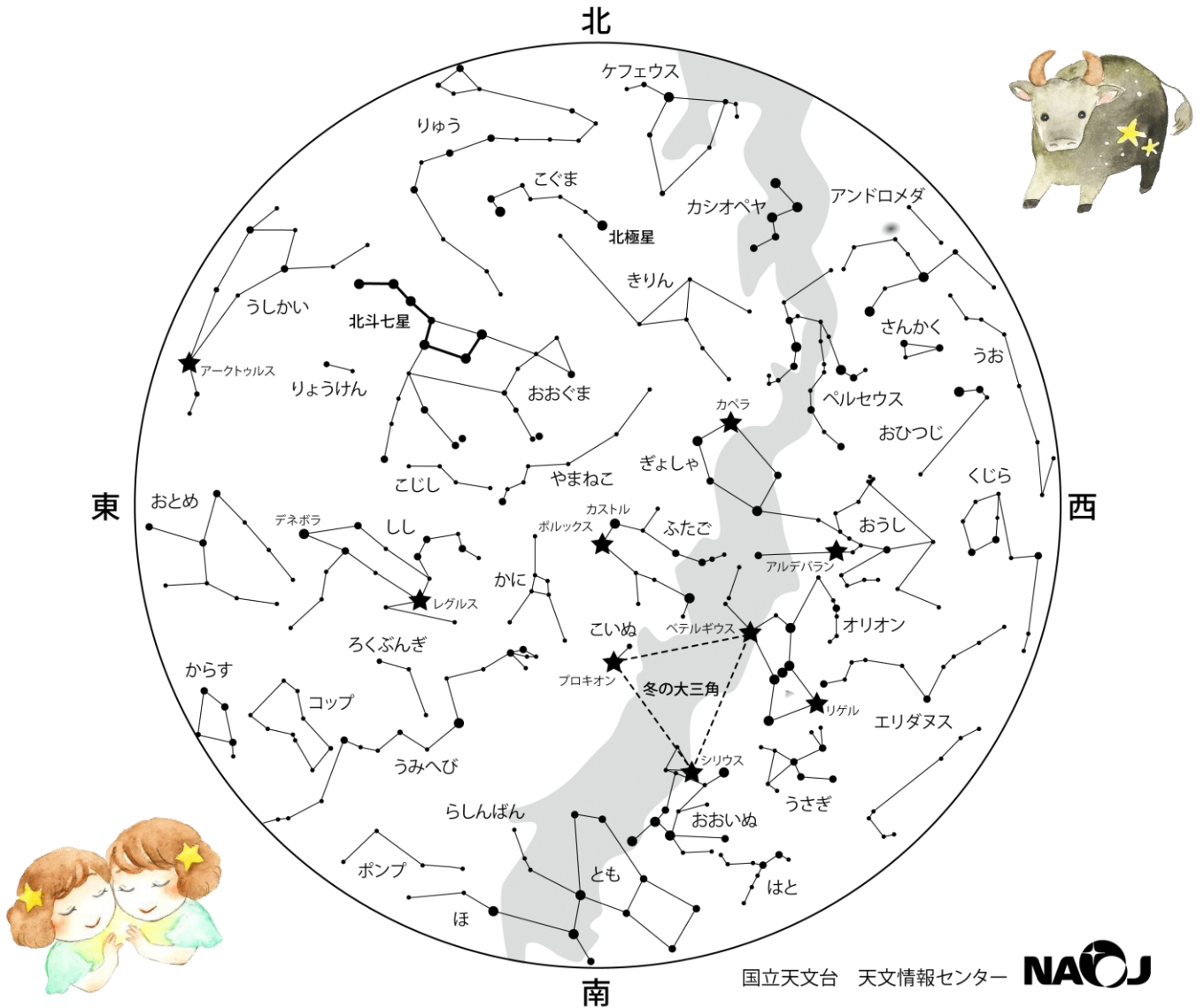
★ 3月20日、金星が西方最大離角

3月の金星は、2月13日の最大光度をピークに、少し明るさを落しながら日の出前の南東の空で輝いています。金星は宵の明星、明けの明星といわれるように、日の入り後の西の空か、日の出前の東の空に見られます。3月20日の西方最大離角は、太陽からの角度が西側に最も離れるという意味ですが、春の明け方の金星は、高く昇る前に朝の空に溶け込んでゆきます。



- ★ 3月のプラネタリウムの内容につきましては、別刷りの「投影案内」をご覧ください ★
- ★ プラネタリウムのお休み 3/7(月)、14(月)、16(水)、22(火)、28(月)
- ★ 新型コロナウイルス感染症対策で、入場定員を減らして投影しています。

3月上旬午後9時頃の星空



★ 3月上旬の主な天文現象

3日(木)	● 新月 明け方に水星と土星が大接近	7日(月)	月と天王星が接近
5日(土)	☾ 啓蟄	8日(火)	月とプレアデス星団が並ぶ
6日(日)	☾ 木星が谷	9日(水)	おうし座の星の食
		10日(木)	● 上弦

★ 国際宇宙ステーション(豊川での主なデータ 3/1~15) ※下記時刻は、予想値です

◇	3月 10日(木)	[見やすさ ◎]	5:02	北北西	~	5:09	東南東
◇	3月 12日(土)	[見やすさ ◎]	5:03	北西	~	5:09	南東
◇	3月 13日(日)	[見やすさ ○]	4:17	東	~	4:20	東南東
◇	3月 15日(火)	[見やすさ ○]	19:16	南南西	~	19:19	南南東

豆知識：国際宇宙ステーション (ISS) は、明るい星が動いているように見えます。
飛行機のような赤緑ランプの点滅はありません。